

平成23年度

第2回

埋蔵文化財展示室更新検討委員会

議 事 録

(要 旨)

実施日 平成24年1月25日（水）

実施場所 札幌市中央図書館 3階 研修室A

平成 23 年度 第 2 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会 会議要旨

<<会議概要>> * * * * *

1. 開催日時・場所

平成 24 年 1 月 25 日（水） 18:00～20:00

札幌市中央区南 22 条西 13 丁目 札幌市中央図書館 3 階 研修室 A

2. 出席委員氏名（五十音順、敬称略）

右代啓視、加藤博文、川名広文（副座長）、越田賢一郎（座長）、小杉 康、平間吉春、
深澤百合子

3. 事務局氏名

文化部長	杉本 雅章
文化財課長	本間 敬規
埋蔵文化財係長	仙庭 伸久
埋蔵文化財係	藤井 誠二、石井 淳
乃村工藝社	福田 良一、木野 聡子

4. 傍聴人

1 名

5. 会議次第

- (1) 展示室に求められる役割・機能
- (2) 最近の展示手法の紹介
- (3) 北海道内の類似施設の紹介
- (4) 埋蔵文化財展示室更新案について

<<会議要旨>> * * * * *

1. 開 会

事務連絡

会議は、札幌市情報公開条例の趣旨に基づき公開で行う。議事録は、要旨を取りまとめ、年度末までにホームページ上に掲載し、併せて埋蔵文化財センター事務室に備え置く。

第1回検討委員会議事録については、要旨を取りまとめ、委員へ配付するとともに、ホームページ上に掲載した。

2. 議 事

議題1 展示室に求められる役割・機能

事務局：前回の委員会で出された意見を集約、整理した。構成については、1. 展示室がターゲットとする対象を広げる必要があること、2. 指定文化財や代表的・特徴的な資料を生かした展示構成にすること、3. 展示構成を明確にし、時代区分をわかりやすく表示すること、4. 体系的な歴史の流れを示すために、通史型の展示や編年表などを明確にすること、5. アイヌ文化期の出土資料を展示して、連続性のある歴史を伝えることなどの意見が出された。手法では、1. 限られたスペースを補う装置や機器の導入、2. 他館との連携、3. 資料の希少性、耐久性に合った展示手法の採用、4. 保安上の安全性を確保する必要があるといった意見が挙げられた。運営では、1. 多言語表記の採用、2. 学校の課外学習の場として体験メニューを充実させることなどが意見として挙げられた。

展示室のコンセプトについて、以下のとおりに整理した。1. 埋蔵文化財の保護及び活用の重要性についての認識、理解の普及、2. 札幌市内の発掘調査成果の公開、3. 発掘調査資料に基づく研究及び成果の公開、4. 札幌市埋蔵文化財センターの仕事の紹介、5. 生涯学習における情報発信。次に、役割・機能について、以下のとおり整理した。1. 出土資料に基づいた通史展示を行い編年表を提示すること、2. 遺跡分布図を表示し解説すること、3. 埋蔵文化財の保護に貢献のあった人物を紹介すること、4. 速報展示や企画展示などに利用できる多目的展示スペースを設置すること、5. 児童生徒が遊びを通じて札幌の歴史に興味を持つ機会を提供すること、6. 映像解説、情報検索などを利用してより多くの情報提供をすること。なお、前提条件として、展示室への職員の配置が難しいこと、更新が現状の面積内で行わなければならないことを補足した。

座 長：事務局から前回の意見を取りまとめた上で、現状の整理として、展示コンセプト、役割、そして機能について説明があった。まず展示コンセプトについて議論を進めていきたい。前回はコンセプトをしっかりとしないといろいろな企画が決まっていけないという話があったが、このことについて意見はないか。

委 員：コンセプトの一つ目の、保護・活用の重要性についての認識や理解の普及ということについて、どういう背景を考えているのか説明して欲しい。具体的には、例えば、それが市の指定文化財になるなどのプロセスを踏んで、より重要性の評価につながっていくものと思う。流れとして理解できるような展示を含むということならわかるが、ただ単に、地下に埋まっているものは先人から残されてきたものだから大事だということだけであれば、抽象的でイメージが伝わりにくい。もし、コンセプトとして重要性を認識してもらい、もしくは理解を普及させるということであれば、出てきたものがどういうふうに重要だと社会的に評価されるのかなど、札幌市

の遺産としての評価をわかりやすく見せることが必要だと思うのだが。例えば、どうしてこれが市の指定文化財になったのだろうか。

事務局：今回の展示コンセプトは、具体的な部分に踏み込んでいくということではなく、大きく基本となる部分を何本か立てて、その次の段階で細かい部分に踏み込んでいきたいと考えている。

座長：具体的なものについてはこれから提案していく。また、その中で、埋蔵文化財の保護及び活用の重要性を訴えていくということについて異議はない。今後、それをどう具体化していくかということが、これからの課題になっていくと思う。

委員：従来の展示コンセプト、機能、役割と、今回のどこがどう違ったかというのを、具体的に示せるのか。

事務局：展示コンセプトは、基本的に従前の考え方を踏襲している。集約した課題と今回の整理が対になっていない部分については、内容、文言等を含め再度整理したい。

委員：前回は話に出たが、コンセプトはすごく大切だと思う。今回提示されたものを見ると、展示コンセプトと言えるのは1のことぐらいではないかと思う。2以降、3、4というのはむしろ機能、役割であって、コンセプトとはもっと大きく、それで展示の方向性が決まってしまうものだと思う。コンセプトが前提にあって、機能、役割によって、具体的な機能のさせ方、実際の展示の手法ということになるのではないか。内容的には、1のほか、5を埋蔵文化財センターとしての生涯学習の情報発信拠点という形でコンセプトとし、2～4は、機能、役割として整理したほうがいいのではないか。

委員：埋文センターの仕事であれば1から5で十分だと思うが、展示となると、何を伝えたいか、何を見せたいか、それがコンセプトになる。そういうコンセプトを立てなければならないと思う。例えば、遠軽町埋蔵文化財センターであれば、旧石器。函館市縄文文化交流センターは中空土偶があるので、縄文を発信する。北海道埋蔵文化財センターは、北海道全部の網羅的な文化財。八戸市の是川縄文館では、国宝の合掌土偶を核に縄文時代晩期の文化を伝えるという、それぞれ館の特色なりコンセプトを持っている。札幌市では、どういうふうなコンセプトを持っていくのかということだと思う。

委員：1と5は分ける必要はない。埋蔵文化財の保護というのは生涯学習で行うべきことだろうと思う。

座長：次回に向けて、札幌市が埋蔵文化財センターとして何をj見せることによってコンセプトを具体化できるかといったことを考えていただきたい。特に、札幌として見せられるものは何なのだろうか、200万都市にこういう埋蔵文化財があるというようなことをどう訴えていくかというもの一つ大きな役割になるのではないかと思うし、そこをコンセプトとして考えても良いのではないかと思う。また、コンセプトと相まって、誰にどういうふうに見せるのかという問題が重要になる。今度は、対象をどういった人たちに置いたらいいのか、一般市民とするのか、小学生・中学生という形にするのか、それとも観光客も含めて総花的にしてしまうのか。札幌市の埋蔵文化財センターとして、ここでどういう役割を担っていくのかということを押さえて

おかないと、これから先が進まないように思うので、この部分で少し意見を伺いたい。

委員：対象を特定してしまうと来館者が限られてしまう。展示施設としてはできるだけ幅広くの人を取り込めるような形が基本。どういうものを見せることによって、多くの人を取り込めるかという展示の方法を考えていった方がよいのではないか。小学生が学校の帰りに遊んでいくような、日常の中に取り入れられるような展示方法にすれば、いろいろな層の人を取り込めるのではないか。

委員：今までの展示の空間の中で、訪問者の方々からの具体的なリクエスト、例えばこういう部分の情報をもっと欲しいとか、こういうふうに改善してほしいとか、感想みたいなものも含めてそういう蓄積はお持ちですか。

事務局：現在は、来館者の方の声を拾い上げるというようなことはしていない。

委員：コンセプトや役割、機能、対象というのを、分けて考えるのはなかなか難しい。展示室には、開館以来、どんなことでもわからないことがあったら書いてくれというノートが置いてあったが、子供たちや一般の方々の質問は単純ではなく、専門家でもかなり勉強しなければというレベルの答えを用意しなければならなかった。それを一般の来館者に説明して理解してもらうのはかなり難しい。いろいろな人が来て、見学する時間も様々なので、積み重ねてきたものがあるといえはあし、ないといえはない。曖昧な言い方になるが、いろいろな手法を使うより、人間が説明することが一番いいという考えを持っている。やはり、言葉による説明が一番理解されるのではないかと思う。また、現状で言えば、コンセプトではないかもしれないが、札幌市内の発掘調査成果の公開、研究及び成果の公開に力を入れた方がよい。来る方々も、そこにすごく興味を持って来ることを考えると、スペース拡大の必要性も感じる。

委員：人間が話すのがいいとのことだが、対応が難しいということを考えれば、知りたいレベル、知りたい状況によってコース分けして、それを機械で補うような方法も可能ではないか。

座長：人の問題が出たが、全く解説員は置かないのか確認したい。

事務局：全くないということではありません。毎日ずっと展示室にいないという意味で常駐していないということであって、職員は常に事務室にいますので、解説を求めることは問題ありません。

委員：対象を限定することは、逆に間口を狭めてしまうという指摘はそのとおりだと思うが、狭めるということではなく、明確にするという意味では、やはり市民にということですね。まず市民に、あと観光客に、そして、児童、学童、生徒。ただし、この三つに限るのではなくて、明確化するという意味で念頭に置いていいのではないか。それがあってどういう手法かというのがかなり明確化してくるかと思う。

委員：それがコンセプト。それも余り間口を広げてしまうと、北海道の中の札幌とか、世界の中の札幌とか、日本の中の札幌、そういう展示を展開しなければならないので、今の展示スペースからするとこれは無理になってくる。また、映像ばかり増やしても非常に大変になってしまうので、やはりコンセプトが大事になる。何を見せたいかということと、だれを対象とするかとい

うのをしっかりしないと全部ぶれてしまう。そこを明確にして進まないで、展示はなかなかうまくいかない。例えば、手法では、文字を大きく、わかりやすくする場合、年齢層をどこに合わせるかというのが大事になる。あるいは、札幌であれば、例えば「扇状地の先史文化と人々」という展示を、どのように、だれに見せるか、というように、キャッチコピー的な形にするのがコンセプトだと思っている。

座長：対象を絞るとするのは、大勢の人を対象にすることを目標にしながら、必要などを押さえておくことだという意見がありました。もちろんこれは市民、観光客もそうですし、児童生徒という、広いものを対象にしなければいけないのは間違いないことだと思う。そこをコンセプトとしてわかりやすく打ち出していくのがまず一番必要なのではないか。そして、それを具体化するときにどうしていけばいいかということは、またこの次の機会で練っていきたい。ひとつ付け加えると、やはり展示コーナーが幾つかあるので、その部分の対象が少しずつ違っていてもいいのではないかと思う。もちろん表現は統一する必要があるが、対象を展示に合わせてつくり上げていくという手法も広い人たちに見てもらえるのではないかと思う。コンセプトについて、誰に、どういったものを見せるかということ、もう一度考えていただきたい。

(休憩)

議題2 最近の展示手法の紹介

(議題2について、事務局より説明)

議題3 北海道内の類似施設の紹介

(議題3について、事務局より説明)

(休憩)

議題4 埋蔵文化財展示室更新案について

座長：議題4に進めていきたい。まずは「埋蔵文化財展示室更新案」ということで、事務局から展示室更新に当たっての大きな考え方を示していきたい。

事務局：議題4の埋蔵文化財展示室の更新案について、簡単に説明させていただきます。別添資料の一番後ろのページになりますが、展示の構成に関する大きな流れというところでの提案でございます。まず、1番目としましてシンボル企画展示。これは、発掘の調査報告をする速報展示という部分も兼ねたシンボル企画展示。2番目としては、ガイダンス映像。映像については、狭い展示室を補うために映像という手法を使い、時間のない観光客、難しい文章を読むのが苦手な子供たちを意識しながら、ガイダンス映像を取り入れるという提案です。3番目は、展示室の大半をこの展示に使い、通史による体系的な展示を行う。旧石器時代からアイヌ文化期に至る一通りの流れを示すこととなります。ただし、札幌市埋蔵文化財センターが保有している資料が中心となりますので、通史ではあるのですが、展示資料の量については、ばらつきが出てくると考えられます。4番目は発掘の歴史展示。札幌市で埋蔵文化財を発掘してきた今までの歴史的なもの、あるいは人に焦点を当てた展示と考えております。5番目は、埋蔵文化財センターでの仕事ということの紹介をしていきたい。それから、6番目として、主に子供たちを対象とする体験コーナーを設けたいと考えております。

座長：これは、展示替えの大まかな方針を立てるための材料ということになるかと思います。こういった流れをつかむのが基本方針の策定になるわけですが、委員の意見を反映させて、どういう形のものにつくり上げていったらいいのかという意見をいただければと思います。

委員：1番から6番まで大体流れとしては現在のものと余り変わらないというか、同じような流れになっていると思うが、新しい視点というか、市民を巻き込んで、市民が楽しめるような要素を含んだ形でジオラマを活用してはどうか。一つは、市民参加型で札幌の歴史のジオラマをつくり上げるような、講習会、企画展、学習講座といったものを取り入れ、展示の中に自分たちも参加できるという要素を組み込んだ展示を作っていけたら面白いと思う。もう一つ、土偶などの札幌市にとって「宝」呼べるようなものをもっと活用すればよいと思う。例えばパンフレットや絵はがきなど、ミュージアムショップというところでは言葉が的確ではないが、市民にもっと興味を持ってもらえるような、文化財を啓蒙するための手段としてそういう形も取り入れではどうかと思います。

座長：今、札幌市の「宝」という言葉が出ましたが、委員の皆さんへ質問したい。皆さんそれぞれに札幌での埋蔵文化財の売りとは何か、委員さんがそれぞれ考えていることをここで話したいだけとすごく参考になるのではないかなと思います、いかがでしょうか。

委員：誰に見せるかということ意識した形で案が出なくてはいけないと思うが、今の座長の質問と関連すると、「つくっていく」ということを提案したい。学術的な研究を背景にした象徴的な展示をしていくと。例えば、それを半年サイクル、1年サイクルでやっていく必要があるのではないかなと思う。限られた1点、2点のお宝ではなくて、実は埋もれている中にこれだけ学術性が高く価値があるものがあるのだという、そういう展示コーナーをつくっていくというのはどうかというのが一つ私の提案です。もう一つ、今、参加型でジオラマという話がありましたが、それを一過性で終わらせるのではなく、持続的な形にできれば良い企画だと思いました。

委員：参加型ジオラマは、1回だけでつくるのではなくて、例えばジオラマ講座などを企画し、継続的に、持続的に完成型を目指すような、そういうことをイメージしている。

委員：6番目の体験コーナーのところでは、やはりアシスタントがいたほうが良いと思う。今回の話の中でも出たが、フェースツーフェースというか、人を何とかうまく使うことが必要だと思う。友の会、ボランティア、発掘作業の経験者なども考えられる。あるいは、子供学芸員などの制度もある。

委員：本州から来た方が多いと思うが、展示図録はないのかとよく聞かれた。販売はできないのかもしれないが、そんなことはどうなのかなと考えていた。

座長：展示図録という話が出てきた。展示図録なども、表紙を何にするとか、そういった売りが必要になってくると思うが、これを見たら札幌市だと、何かそんなものがあるかと思って問いかけてみたが、他に意見はあるか。

委員：限られたスペースなので、何か工夫して、例えば仕事紹介のコーナーなどを外してしまってみる

という発想はどうだろうか。その分、新しいスペースができる。事務局の提案は、基本的に今までのコンセプトに似ていますよね。いろいろな形で意見が出てきているし、発想を転換して、人気があるならばそれを捨てるのではなく、バックヤードで見せるなど、そういうことも工夫してはどうかと思いました。

委員：最初のシンボル展示というのは固定型の展示になりがちだが、むしろこの部分を可動式というか、比較的頻繁に変えられるようなブース、ファシリティにした方が良い。センターのスタッフの方々も、掘り出された資料を分析し、こういう評価、価値が出てきたというものを発信していくような場所に使える。もう一つは、通史展示の部分だが、今までの焼き直しでは古いという気がします。札幌ならではのということであれば、物としての札幌ならではのより、むしろ札幌のおもしろさは、扇状地を基準にしながら、地域的に人の生活している居住空間が変化していく、変遷していくという流れがあることだと思う。遺跡の時代的な分布も札幌の景観、地形の中で遷移していく、移っていくという部分がある。南区なら南区、西区なら西区、北区なら北区、それぞれの地域の歴史的な特性、遺跡の傾向性が、逆に言うと人々の生活している、活用していく空間が変化してきた、変遷してきたというふうに追えるような、地域の特性を反映できるような展示をすることによって、今の札幌の町の中心というのがどういうふうになってできたのかとか、自分たちが住んでいるところは一体どういう歴史が背景にあるのだろうかというふうに結びつけやすくなるのではないかと思う。

委員：博物館とか資料館とかそういうところは、資料をよく入れ替えないと飽きられてしまう。最近よく言われているのが、いわゆる可変展示ということで資料をどんどん変えて見せましょうというのが主流になりつつある。東京の国立博物館は、まさに可変展示をやっているが、ここも収蔵庫にたくさんの資料が眠っているので、それをどんどん物を変えて見せていくというようなことをしていったらいいかなと思います。これは手法の話になるが、何を伝えたいか、何を見せたいかというのが明確になれば、もっといろいろな展開ができると思います。もう一つは、埋蔵文化財にいかにも価値を与えるかというのは、そこの職員の努力が必要。いわゆるシンボル展示のところでもどこでも構わないが、職員が中心になって展示するコーナーを一つつくって、その文化財を評価する展示をやっていくような試みも大事だと思う。

座長：今、いろいろ出た意見のほかに、通史展示の見せ方についても、アイヌ文化ということをきちんと伝えて欲しいという意見もありました。ただ単に時代順に並べるということではなく、そういったものを取り入れた形でどうやってみせるのかということを考えていく必要があるのではないかと感じます。それともう一つが埋蔵文化財というものの意味、それを埋蔵文化財センターの職員が見せる場所として使うという試みも必要ではないかと思います。

札幌市は、まだ100数十年と歴史が新しい。日本のほかの都市で、人口100万、200万の都市で、こんなに歴史の新しい都市はない。なぜこの札幌という土地に大都市ができたのかを知りたいと思う人が結構いるのではないか。先ほど扇状地の話もありましたが、そういったもの活用して、どうして札幌にこんな大都市が生まれたのかということをお話にかけていく、それが一つ、札幌としての意味があるのではないかと思う。

まだいろいろ意見があるかと思いますが、時間もなくなりましたので、今日の見解はこれで集約していただいて、次回、草案という形で出される基本方針に反映させていただければと思います。それでは、これできょうの会議を終わらせていただきます。

3. 閉 会

事務連絡

会議の議事録は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて作成し、座長が指名する委員2名の署名により承認する。

以上をもって、平成23年度第2回埋蔵文化財展示室更新検討委員会を閉会とし、第3回委員会の開催日程及び内容について連絡し、同検討委員会を終了した。

■ 次回 第3回埋蔵文化財展示室更新検討委員会開催予定 平成24年2月10日（後日、正式告知）

この会議要旨は、事実と相違ないことを証明いたします。

平成24年3月30日

埋蔵文化財展示室更新検討委員会委員

署名人 古 原 敏 弘

署名人 小 折 原